

氏名	中島 弘之
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第 1242 号
学位授与の日付	平成 25 年 11 月 22 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 4 号に該当

学位申請論文タイトル及び掲載誌**Factors Associated with Blunt Cerebrovascular Injury in Patients with Cervical Spine Injury**

頸椎損傷を伴った頸部動脈損傷の危険因子の検討

Neurologia medico-chirurgica 2013 年 6 月 17 日受理

学位審査委員 (主査) 教授 永島 雅文

(副査) 教授 杉山 聡、教授 新津 守、准教授 椎橋 実智男

論文内容の要旨

非穿通性外傷性頸部動脈損傷は頸部の過伸展や回転運動などによる血管内膜損傷に起因し、頸椎損傷が潜在的な合併症であると知られている。当施設で入院加療した頸椎損傷に伴った頸部動脈損傷について検討したので文献的考察を加え報告する。2007 年 4 月から 2012 年 3 月までに当施設に入院となった頸椎損傷の患者 92 症例のうち、神経学的所見や頸椎損傷の程度より判断して MRA か、3D-CTA のどちらかで頸部血管の評価を行った 40 症例(男性 35 例、女性 5 例)を対象とした。10 症例 (25%) に頸部動脈損傷(頸動脈損傷 2 例、椎骨動脈損傷 9 例)が認められ、過去の文献、Allen 分類や Frankel 分類などを基に独立変数を選出し、後方視的に頸部動脈損傷及び椎骨動脈損傷の危険因子について統計学的解析を行った。頸部動脈損傷の平均年齢は 51.5 ± 5.8 歳で、全例で男性及び中下位頸椎損傷であった。頭蓋内損傷を伴ったのは 4 例であり、頸部動脈損傷に関連した脳梗塞発症は 2 例で、うち 1 例は椎骨動脈の閉塞による脳幹・小脳の梗塞をきたし死亡した。治療に関しては経過観察が 6 例、抗血小板薬投与が 2 例、抗凝固薬投与が 2 例で行われた。単変量解析を行った結果は頸部動脈損傷では脱臼 ($p=0.04$) に、椎骨動脈損傷では過伸展損傷 ($P=0.01$) 及び脱臼 ($P=0.01$) に有意差が認められた。それを基に多重ロジスティック解析を行った結果、頸部動脈損傷では脱臼 ($p=0.03$) が、椎骨動脈損傷では過伸展損傷 ($P=0.02$) 及び脱臼 ($P=0.01$) が有意に関連していた。脳虚血症状を呈しより重篤となる症例も存在するため、特に頸椎損傷に過伸展や脱臼が加わったものは頸部血管損傷の可能性を念頭においた早期診断が重要であると考えられた。